

ものづくりの“心”をつたえる。



証券コード: 2169

2015年12月期 決算説明会資料

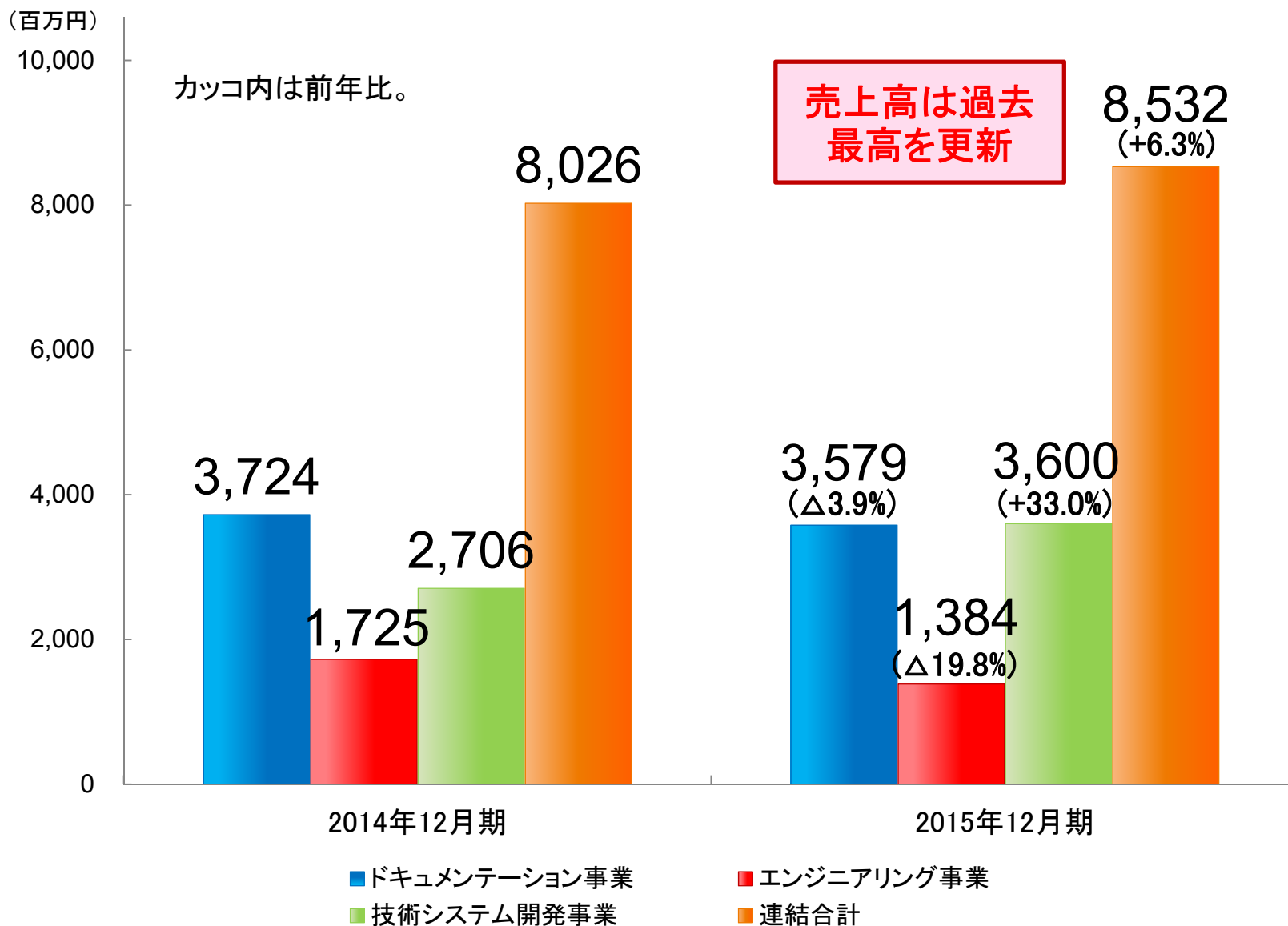
2016年3月2日

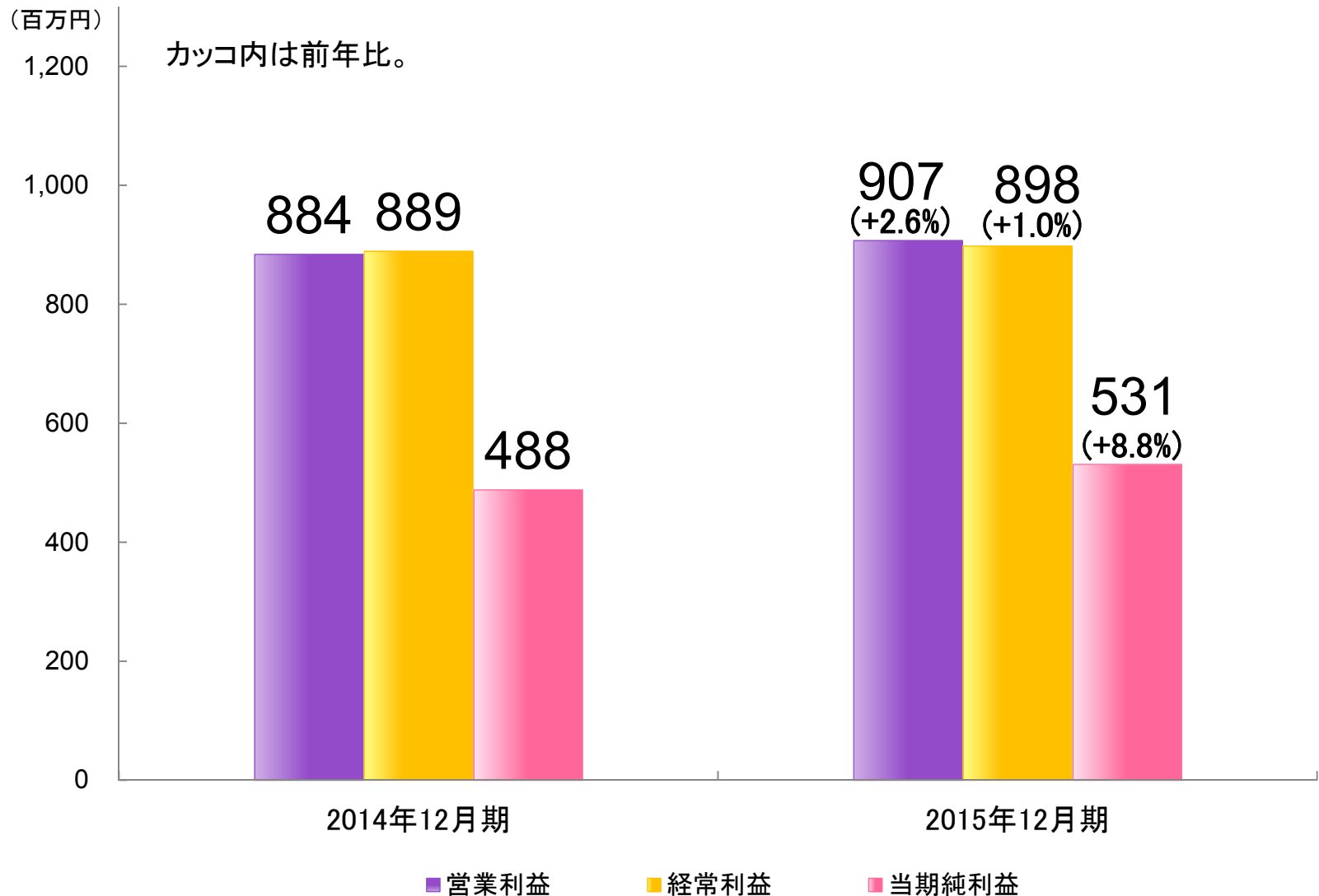


2015年 12月期決算

単位:百万円

	2014年 12月期	2015年12月期		
			前年比	増減額
売上高	8,026	8,532	+6.3%	+506
営業利益	884	907	+2.6%	+23
経常利益	889	898	+1.0%	+9
当期純利益	488	531	+8.8%	+43





増収増益要因

- ◇ ドキュメンテーション事業は顧客企業の機種開発計画の抑制等の影響により減収となったが、作業の効率化、グループ連携の強化などにより利益率が好転し、増益となった。
- ◇ エンジニアリング事業は民間向け事業での営業展開の進捗の遅れなどにより、減収減益となった。
- ◇ 技術システム開発事業は商品販売が好調に推移したことで増収増益となり、グループ連結でも増収増益となった。

ドキュメンテーション事業

売上高 3,579百万円 (△3.9%) 営業利益 955百万円 (+6.4%)

エンジニアリング事業

売上高 1,384百万円(△19.8%) 営業利益 236百万円(△26.1%)

技術システム開発事業

売上高 3,600百万円 (+33.0%) 営業利益 276百万円 (+34.7%)

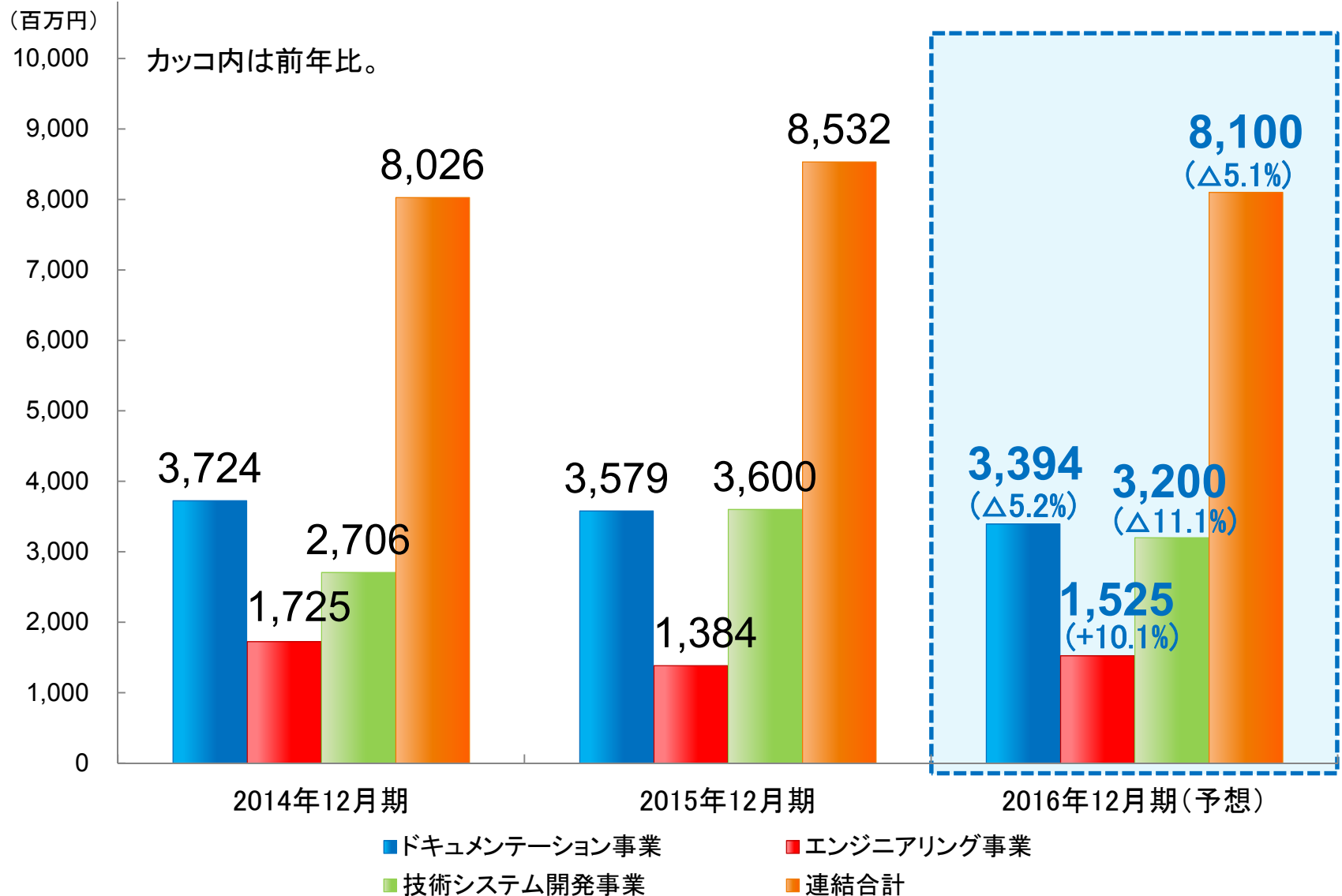


2016年 12月期 業績 予想

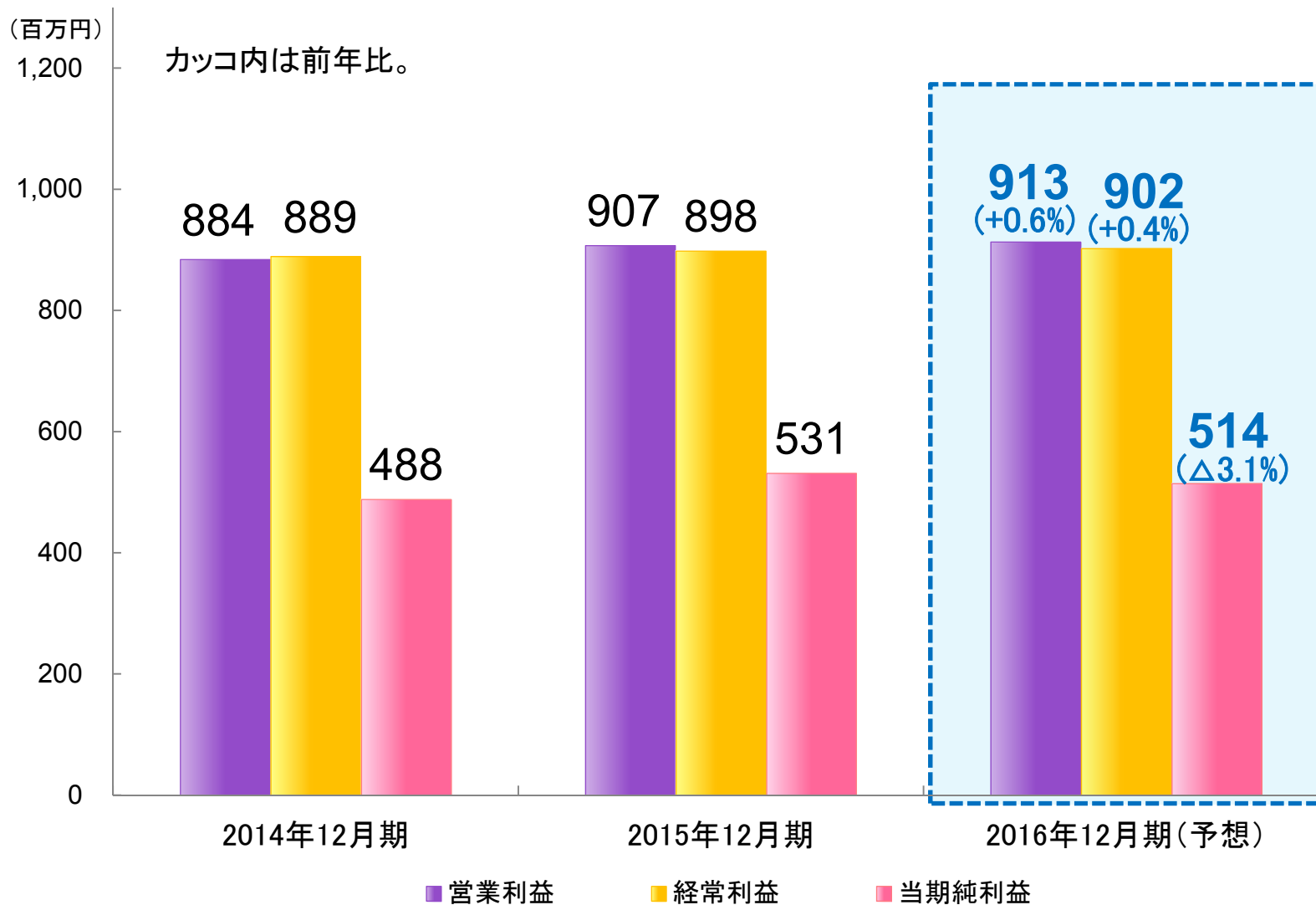
単位：百万円

	2014年 12月期	2015年 12月期	2016年12月期(予想)		
				前年比	増減額
売上高	8,026	8,532	8,100	△5.1%	△432
営業利益	884	907	913	+0.6%	+6
経常利益	889	898	902	+0.4%	+4
当期純利益	488	531	514	△3.1%	△17

2016年12月期 連結売上高の事業別内訳(予想)

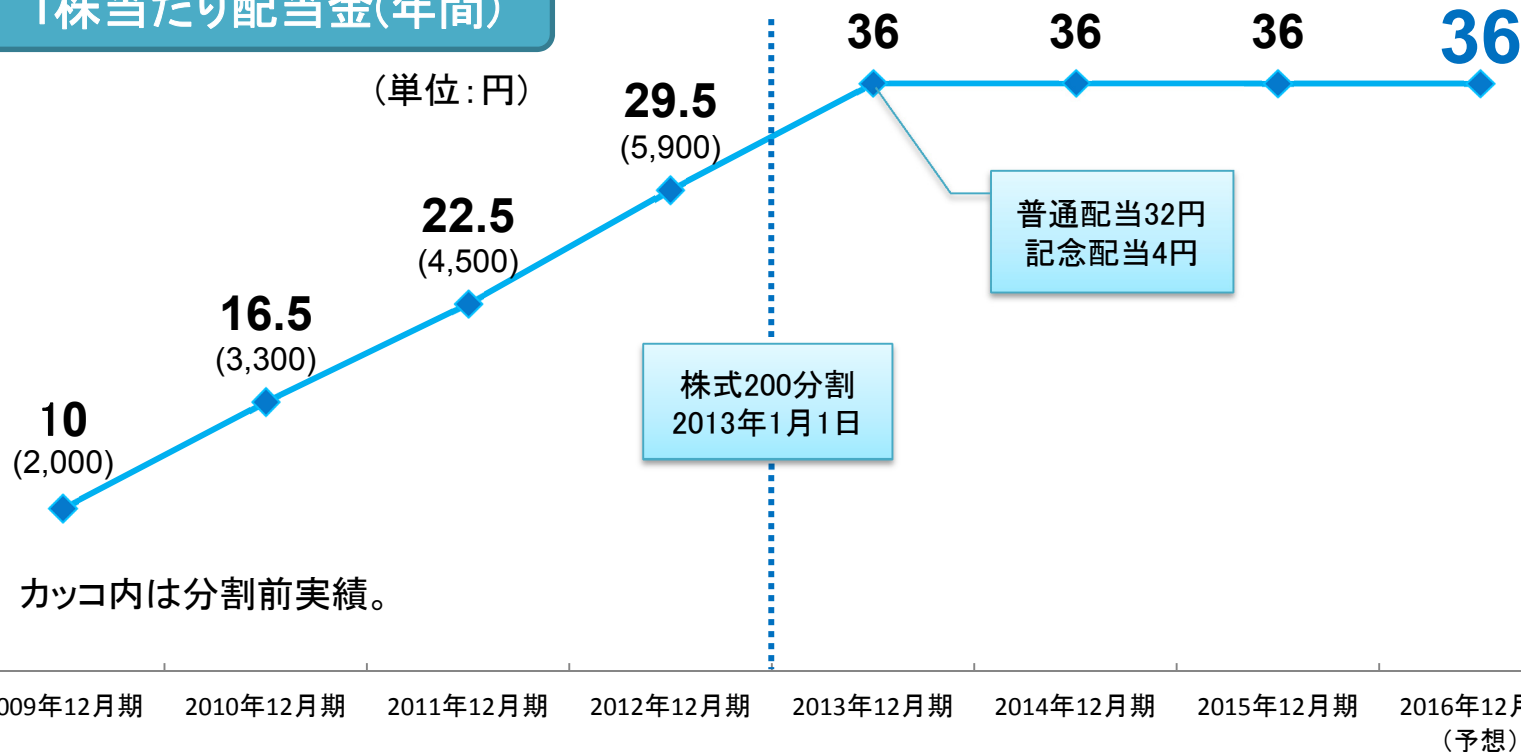


連結利益の推移(予想)



1株当たり配当金(年間)

(単位:円)



	中間	期末	年間	配当性向
2014年12月期	18円	18円	36円	50.2%
2015年12月期	18円	18円	36円	46.2%
2016年12月期(予想)	18円	18円	36円	47.7%



CDSグループ 今後の成長戦略

M&Aの推進

- ・規模の拡大とブランド力の向上
- ・グループシナジーの創出

外部環境

- ◇ 少子高齢化に伴う慢性的な人手不足
- ◇ TPP、農業就業人口の高齢化・減少

エンジニアリング事業のロボットビジネス確立

- ・食品・医薬品・農業・機械分野を中心に独自のセル型ロボット・FAシステムを開発・拡販
- ・先端ロボット技術で差別化・新規顧客開拓

◆マジックペン 自動組立ロボット



最先端技術でユニークな
ロボットアプリケーションを実現

◆自動車部品 バラ積みピッキングロボット

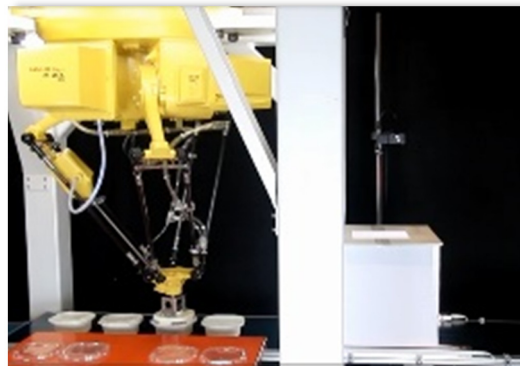


- ・ R&Dセンターでの研究開発力
- ・ 豊富な実績と提案力

◆ラッキョウ 自動根切りロボット



◆コンビニ弁当 ふた締めロボット



◆電機製品 自動組立ロボット



- ◆ この資料は投資家の参考に資するため、CDS株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- ◆ 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。
- ◆ 本資料において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測ならびにリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ◆ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- ◆ 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。
- ◆ その他の掲載内容に関しても最新の注意を払っておりますが、不可抗力により情報に誤りを生ずる可能性もありますので、ご注意ください。
- ◆ 以上を踏まえ、投資を行う際は、投資家の皆様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

